

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 6 回 CCC 社会学グループ運営委員会議事録

- I. 日 時： 平成 22 年 2 月 25 日(木)午後 2 時～4 時
II. 場 所： 社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者： 土屋委員、津田委員、奥村委員
事務局： 井端事務局長、森下主幹、恩田

IV. 検討事項

1. 社会学における情報教育案の検討

まず委員の案について説明がありこれを叩き台として、グループとしての案を検討・作成した。

【 意見および論点 】

- ・ 「情報教育」の到達目標は、「学士力」の到達目標と対応していなくて良いのか？
 - ・ 情報教育は学士力の一部なので、必ずしも対応させなくてよい。各分野の到達目標は 2 つから 3 つで、1 つのところもある。
- 「到達目標」の柱（構成）は、「(1) 収集（発見）・(2) 分析・(3) 発表（提言）」とする。

- ・ 分野の固有性をどれだけ考慮するかがポイントである。
 - ・ 「(1) 収集（発見）」と「(3) 発表（提言）」は、情報リテラシー的な内容であり、どこの領域も変わらない。
- 「(2) 分析」のところで社会学分野の固有性を打ち出す。

- ・ 「2 次データの使用」を「(2) 分析」に入れたらどうか。
 - ・ 「(1) 収集（発見）」に「発見力」をいかに盛り込むべきか？
 - ・ 「気づかせる」ために、「対話」の要素を入れたらどうか。
 - ・ 「自分に都合のいい」データのみを切り貼りさせないようにしたい。
 - ・ ここでいう「情報」はデジタル化されたものだけを指すのではない。
 - ・ 異なる立場に「開かれている」という点をきちんと盛り込みたい。
 - ・ 「多様なフィールド」「多様なリソース」「多様なメディア」を意識させたい。
 - ・ 「未知」と「既知」の境界領域を意識させたい。
 - ・ 「知的好奇心」が重要である。
 - ・ 「コピー&ペースト」で済む「お気楽な方向」に進まないようにしたい。
 - ・ 電子情報と調査を通じた実体験の双方を入れて良い。
 - ・ 情報教育とは「データの意味をとらえる力を身につけさせる」ということ。
 - ・ そこには、簡素化・真偽の読み取り・検証まで視野に入っている。
- 「到達目標 (1) 収集（発見）」に情報を「相対的に捉えることができる」旨、明文化して入れる。また、到達度として「多様なフィールド」からの情報を扱うことを明言する。また教育内容には、web 情報と「フィールドや文献との関係」を意識・理解させる。
- 「到達目標 (2) 分析」の到達度に、分析結果を「批判的に捉える」旨、明文化して入れる。またそれを受けて、教育内容には、分析結果を「比較・検討する」ことを入れる。

上記の検討・審議を経て、社会学の情報教育案を策定した（別紙参照）。

社会学の情報教育(案)

到達目標1

社会的な問題について、多様な情報を適切に収集・整理し、相対的に捉えることができる。

到達度

- ① 多様なフィールドやメディアに遍在する情報について、その所在・構成・背景を知っている。
- ② 情報の信頼性を識別でき、情報の剽窃に関する倫理を身に付けている。
- ③ 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算)などの基本的な情報処理能力を身に付けている。

教育内容・教育方法

- ①は、実際に Web にアクセスさせて、社会的な問題に関する映像・画像・ファクトデータなどの重要性を理解させるとともに、フィールドや文献との関係を理解させる。
- ②は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。
- ③は、初年次教育などで基礎的なスキルを身につけるとともに、実際に使用させレベルアップを図る。

到達度確認の測定方法

- ①～③は、レポート、小テスト、プレゼンテーションなどで確認する。

到達目標2

収集した情報をもとに、社会的な問題についての実証的な分析をすることができる。

到達度

- ① 収集した情報を、分析に必要なデータの形にするために整理・加工することができる。
- ② 量的データ・質的データを分析する機材やソフトを使用できる。
- ③ 分析結果について批判的に捉えることができる。

教育内容・教育方法

- ①と②は、演習科目・調査科目などにより、収集したデータの整理・加工と分析を自ら体験させる。
- ③は、上記を受けて、事例をもとに分析結果の比較・検討を体験させる。

到達度確認の測定方法

- ①～③は、テスト、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。

到達目標3

情報通信技術を活用し、研究成果を発表し、発信することができる。

到達度

- ① 適切なメディアを利用して、研究成果を発表することができる。
- ② 情報通信技術の特性に応じて、適切な批判・評価・コミュニケーションを行うことができる。
- ③ 発表内容に関する情報を適切に管理することができる。

教育内容・教育方法

- ①と②は、演習・卒業論文・報告会・合評会などにより、課題研究の成果を適切なメディアを通じて発表させ、他の発表に対して評価・コメントをさせる。
- ③は、事例研究を通じて、情報を共有し、ディスカッションさせる。

到達度確認の測定方法

- ①～③は、レポート、プレゼンテーション、論文などにより確認する。